

JSA 神奈川支部通信

No. 9 September 2023 日本科学者会議神奈川支部 発行

事務局長：☎230-0071 横浜市鶴見区駒岡 3-30-G-408 飯岡ひろし

HP：https://jsa-kanagawa.jp、携帯電話 080-1987-0994、E-mail：iioka408(at)gmail.com

年会費 10800 円、院生・読者 5400 円 ゆうちょ銀行振替口座 0280-1-12774 日本科学者会議神奈川支部

この号の目次

- ◆ 原水爆禁止 2023 年世界大会・科学者集会の報告 実行委員 浜田盛久
- ◆ 原水爆禁止 2023 年世界大会・科学者集会を視聴して 後藤仁敏
- ◆ 山崎圭一教授の講演と、私のブラジル 高橋裕子
- ◆ 学術フォーラム「欧州とアジアの地域紛争をめぐる平和的解決と世界経済の行方」 後藤仁敏
- ◆ 「プラスチックのリサイクルと有害化学物質」の要約紹介とコメント 神奈川民間懇 北山宏之
- ◆ 「横浜ノースドックへの米軍揚陸艇部隊配備反対連絡会」結成集会の報告 後藤仁敏
- ◆ 日本科学者会議第 54 回定期大会の報告 支部代議員 飯岡ひろし
- ◆ 59 期第 2 回幹事会の概要 総務財政部長 笹倉万里子
- ◆ 横浜市三殿台遺跡・考古館の見学会のお知らせ 後藤仁敏

原水爆禁止 2023 年世界大会・科学者集会の報告

浜田盛久(原水爆禁止 2023 年世界大会・科学者集会実行委員)

7 月 29 日午後、「核を含む大軍拡の嵐の中、大学・学生・高校生から平和の発信を」と題して原水爆禁止 2023 年世界大会・科学者集会をオンライン形式で開催しました。集会参加者数は、その時々で多少の変動はありましたが、最大で 137 名でした。

直野章子さん(京都大学)の講演「被爆体験と核兵器廃絶の間」では、被爆者が生きる苦しみの中にありながらも、ビキニ事件を契機として 1954 年から始まった原水爆禁止運動と出会う中で原水爆禁止運動の主体となっていた経緯が紹介されました。被爆者は被爆したからといって即、核兵器に反対であったわけではなく、逆に言えば、被爆体験がなくても原水爆禁止運動の担い手になり得ることが示されました。続く基調報告で赤井純治さん(新潟大学・本集会実行委員長)は、新潟大学非核平和宣言の制定とそれに基づく新潟大学での平和教育の経験から、学生たちが平和運動に立ち上がりにくい、あるいはあまり動きが出てこないのはなぜかを考察しました。支配階級のイデオロギー攻撃が学生を含めて国民に影響を与えているためではないか、との述べ、それを乗り越える団結、理論、思想の力がカギとなることを強調しました。師井勇一さん(明治大学)は、人権と平和をつなげ、非戦・反戦と貧富の格差の是正など様々な社会運動と連携して積極的平和を創り出す平和創造学の可能性について報告しました。高校教員として高校生平和ゼミナールに助言してこられた沖村民雄さんは、今の教育現場の様子(例えば、教科書には日米安保条約に対する批判的記述がない、など)と高校生の活動について報告しました。大学生や高校生からは、平和ゼミナール活動、活動に参加しない周囲の学生の意識、平和教育の受け止めから平和行進へ参加した経験などが紹介されました。集会の最後に、「非核・平和の世界の実現のため、今こそ大学・学生・高校生からの主体的発信をよびかけます」と結ぶ集会アピールを採択しました。

今、ウクライナ戦争で核兵器が使用される危険があり、国内では大軍拡の動きが加速しています。このような国内外での平和を巡る危機的状況の下、大学からも非核・平和の声を上げるべき

時です。情勢の解明・論点整理と併せて、平和運動のこれからの担い手である学生や高校生からの報告にも力点を置くという、科学者集会としては初めての試みは今回、成功したのではないかと考えています。

今年の科学者集会は準備開始が遅く、宣伝開始や参加申し込みの受付開始も遅くなり、直前まで成功が危ぶまれる状況でした。結果としては、オンライン形式での集会というメリットを生かして、全国から、高校生や大学生を含む幅広い年代の方々に参加して頂くことができました。JSA 神奈川支部の皆様には、直前の参加呼びかけにも関わらず集会に参加して頂いたり、集会に対する賛同・支持(募金を含む)を頂きました。実行委員の一人として厚く御礼を申し上げます。なお、本科学者集会の内容は、原水爆禁止 2023 年世界大会・広島デー集会(8月6日、1500人参加)に於いて、赤井実行委員長によって報告されました。

原水爆禁止 2023 年世界大会・科学者集会を視聴して

後藤仁敏

2023年7月29日の午後、原水爆禁止 2023 年世界大会・科学者集会が「核を含む大軍拡の嵐中、大学・学生・高校生から平和の発信を」をテーマに、オンラインで最大 137 人の参加で開催された。

直野章子さんの講演

直野章子さん(京都大学人文科学研究所教授)が「被爆体験と核兵器廃絶の間」について、スライドを使用しながら以下のように話した(図1)。

被爆者は現在では反核平和運動の象徴とされているが、1950年代は必ずしもほとんどが核兵器に反対し、日本の核武装に反対ではなかった。被爆者は、生き残ったが故の苦しみ、罪意識、病気と貧困、偏見と差別の人生を生きてきた。戦後10年間は政府による補償もなかったのだ。



図1 講演する直野章子さん

占領期は被爆体験を伝えるににくい状況であったが、1952年に「原爆被爆者の会」が広島で結成され、被害者の治療と生活の問題の解決、再び惨事を繰り返さない運動が始まり、原爆被害者としての自覚が芽生えた。

1954年3月にビキニ事件での第五福竜丸の被爆が起こり、1年で3000万筆の署名が集まって、1955年8月に広島で第1回原水爆禁止世界大会が開かれ、1986年には日本被爆者団体協議会(被団協)が結成され、原水爆の禁止と原爆被害者援護法の制定を求めた。1960年代は原水爆禁止運動の分裂で混乱もあったが、1970年代には独自の活動を展開し、1980年代には国際活動も活発化した。2017年には核兵器禁止条約が採択され、2021年に発効した。

被爆者はアメリカ政府の責任を追及するとともに、戦争を起こした日本政府にも責任を追及している。再び被爆者をつくるな、核兵器は絶対に許してはならないを求めることが、被爆者の歴史的使命となっている。

赤井純治さんの基調報告

実行委員長の赤井純治さん(新潟大学名誉教授)は「核を含む大軍拡の嵐中、大学・学生・高校生から平和の発信を—新潟大学比較平和宣言から平和教育の実践/現代学生への向

き合い方について問題提起」として、以下のように基調報告をした。

今、多くの運動で若い人びとへの世代継承が問題になっている。そのためには平和教育が重要である。一般論とともに自分の新潟大学での経験を述べたい。新潟大学では 1949 年にイールズ事件で物理学の横田伊佐秋教授が辞職勧告を受けたことに抗議する 35 名の学生が血判状を出すこともあった。秋田教授は原水禁新潟協議会理事長を務めたが、今は赤井が務めている。新潟大学は 1988 年に非核宣言を出した。平和講義は初め自主的であったが、1994 年には平和を考える抗議としてスタートし、2004 年には学生の平和サークルもでき、2006 年には新潟大学九条の会もできた。新潟は米軍の原爆投下の 4 目標の一つでもあり、新潟から平和を発信する意義は大きい。赤井の講義では、五感を磨き、知性と勇気を身につけ、少数であっても真理を大切にすることを教えている。平和憲法があるのに大軍拡を進める日本は危機的な状況にあり、今こそ「非核平和」を高く掲げる時と述べた。

6 人の報告

次に、6 人が次々に話した。明治大学の師井勇一さんは「平和創造学の可能性—人権と平和を探求する明治大学より」と題して、以下のように話した。明治大学は 2017 年 1 月 15 日に「人権と平和を探求する明治大学」という全面広告を朝日、読売、毎日の各紙に掲載した。人権があつてこそ、貧困や格差を是正してこそ、積極的平和が実現できる。人権と平和をつなげる平和創造学の可能性を追及したい。

高校生平和ゼミナール全国連絡センターの沖村民雄さんは「高校生平和ゼミナールと主権者教育の課題」について次のように述べた。日本では 18 歳選挙権は実現しても、高校生の政治教育と政治活動は禁止されている。中高の教科書には日米安保条約に対する批判はなく、政府の見解を紹介しているのみとなっている。高校生にも社会の問題を学び、話し合う場所が必要だ。

慶応大学学生平和ゼミナールの高木安奈さんは「平和についての対話で見える学生のリアルとその閉塞感の突破口(?)」として、若者は自分の将来の安定だけでなく、平和について語り合い、どういう社会に生きるかを考えて学ぶことで閉塞感から抜け出し、被爆体験も語り継いでいきたいと述べた。

武蔵野大学の東京学生平和ゼミナールの田原ちひろさんは「学生平和ゼミナールの活動を通して思うこと」として、広島 G7 前に日本政府に核兵器禁止条約への参加をもとめる署名を集めた経験を語った。

新潟大学の犬野朱璃さんは「新潟大学の講義『平和を考える』をきっかけに私が抱いた平和への思い」として、学生は 3 人だけだったが、平和行進に参加した経験を活かし、平和を訴えて行きたいと述べた。

沖縄の高校生は、沖縄で高校生平和ゼミへの参加から、外務省に 13642 筆の署名で核兵器禁止条約への参加要請をした経験を報告し、学びと友情こそが平和のために抑止力だと語りました。高校生や大学生の発言は、私たちに希望と勇気を与えるものとなりました。

最後に、「今回の科学者集会では、平和教育の課題を取り上げました。平和教育を継続的に取り組んでいる大学などの経験、非核・平和の運動に取り組んできた大学生や高校生の経験を出し合い、平和教育や非核・平和の運動をどう進めるのかを、問題提起もしつつ議論しました。

核を含む大軍拡を止め、非核・平和の世界の実現のため、今こそ、大学・学生・高校生からの主体的発信をよびかけます」との集会アピールを採択し、閉会となった。

思えば、大学 1 年生の夏に第 11 回原水爆禁止世界大会に参加したことが私の人生の契機

となった。大塚駅でカンパを募り、その資金で大会に参加し、7月31日の総括集会から8月2日の閉会集会までさまざまな行事に参加した。沖縄・小笠原特別集会ではなぜか書記を務めた。最後の小石川運動場での閉会総会では、全学連・都学連の要請で警備に当たり、全国の参加者と握手した感動は生涯忘れえぬものとなった。

若い世代も同じような経験で運動を引きついでいる状況を知り、たいへん心強く感じた集会となった。

山崎圭一教授の講演と、私のブラジル

高橋裕子

5月20日の山崎圭一教授の「中南米における第二次ピンクタイドと自主的外交の展開」は是非とも聴講したかった。なぜなら私は南米、とりわけブラジルへの関心が強い割に、特に政治関係で知らないことが多いことを痛感しているからだ。

まだ軍政だった時代、その最後の頃の民主化要求デモに友達と参加した。私の初デモ参加である。但し日本から行ったわけではない。そこに住んでいたから。しかしその後、日本に帰国し、あまりブラジルの政治を知る機会も減ってしまった。私の専門とは180度違う分野だったため、例えば高校の先輩にあたる人が大統領になっても、冷めた目で見ていただけだ。

日率1%と言われた超インフレ時代が終わり、大統領がLulaからGilmaになった直後、日本の原発が爆発した。横浜にもプルームはやってきた。この時、私はやっと社会に、政治に、そして非科学的な判断が横行する実態に目を向けることとなった。

ブラジルの原発の状況や開発計画、Goianiaの被曝事件のその後についても調べた。社会運動をしている人とも友達になった。ブラジルに生きる広島の被爆者とも話をし、被爆体験を伝える活動を見て来た。古い友人とも大統領や政治について語り合った。しかし知識はつまみ食い。網羅的には何も知らない。だからこそ山崎教授の講演会を聴講したかったのだ。残念である。

講演聴講は叶わなかったものの、神奈川支部の皆様に興味があるかも知れないことを想像しながら書いてみようと思う。講演のタイトルからの想像である。

ブラジル人の歴史認識

「ブラジルはこれまでの1度も自ら外国に戦争を仕掛けたことがない」とブラジル人は言う。但し攻め込まれたら戦うという意味は非常に強い。ブラジル人に刻まれているのは受けざるを得なかった戦争、侵略されようとした2回の経験。どちらも勝利し土地を守った。そして独立も、奴隷解放も、共和制への移行もほぼ無血で成し遂げた。その後軍事政権になり、多くの弾圧と行方不明者が出つつも基本的には再民主化を平和的に実現できたのは、この歴史認識があったからだとは私は思っている。

だから昨年10月、Bolsonaroが選挙で負けたのに観念しない時は、「まるでサッカーに負けた子供みたいだ」と言われた。今年1月に大統領府が占領された時は、民主主義を守れ！のメッセージに溢れた。力づくの行動への拒否感なのだと思う。

ブラジルの原発

「新しい原発建設を許可したのはLulaだ。忘れてはいけない。」これは反原発運動の、どちらかと言うと左派的な人の言である。すでに稼働しているリオデジャネイロ州 Angra

dos Reis とは別の原発を北東部 Itacuruba に建設する計画のことをさす。F1 爆発の影響で計画は大分先延ばしにはなっていた。

しかし久しぶりに調べたら、2021 年に動きがあったようだ。さらに 2030 年頃までに最大 8 か所作ろうとしているらしい。Bolsonaro 政権での話である。あくまでも場所も未定の計画。かつ、その後のザポリージャ原発危機の影響も受けているようだ。

(横浜生まれ。ブラジルには 1976-84 年、その後も永住権確保のため 2 年に 1 回以上のペースで 2018 年まで繰り返しブラジルを訪問。現在愛媛大学理学部)

学術フォーラム「欧州とアジアの地域紛争をめぐる平和的解決と世界経済の行方」

後藤仁敏

2023 年 7 月 9 日、日本学術会議主催の学術フォーラム「欧州とアジアの地域紛争をめぐる平和的解決と世界経済の行方—学術共同の観点から」が、日本学術会議講堂とオンラインの併用で開催されました。

私は、2000 年 1 月に「特別シンポジウム：21 世紀の地球環境と IGCP (国際地質科学計画)」に参加・発表して以来、23 年ぶりの日本学術会議講堂となりました。



図 1 総合討論で登壇する発表者

挨拶と趣旨説明

最初に日本学術会議会長の梶田隆章氏と、前会長の山極壽一氏が挨拶しました。梶田氏の挨拶が平和学・和解学の重要性を指摘した決まり文句であったのに対し、山極氏の挨拶は人類学者だけあって、人間の本性が「闘争する」ことにあると見るのは誤りで、「助け合う」ことにあるという考えを復活させることが重要、経済は人間の生活を豊かにするものだと訴えた。

ついで、羽場久美子氏が企画趣旨説明をした。ロシア・ウクライナ戦争をめぐる欧州の不安定化と、米中対立にともなう東アジアの防衛強化と緊張の高まりを、歴史的・社会的な問題をふくめ、また学術が地域紛争の平和的な解決にどのように貢献できるのか、という立場から多元的に検討し、解決の方策を探る。また、これらの背景に、世界的な経済変動があり、とりわけ「国家主導資本主義」と脱グローバル化の問題が、分断を助長しているという重要な国際経済の枠組みから地域紛争の根源を明らかにするとのことだった。

6つの発表

はじめに、劉傑氏 (早稲田大学教授) が「和解学の可能性」について次のように述べた。和解学は「かつての対立と紛争を和解と平和に導く学問で、歴史学と紛争解決学を包括する新領域である。講和条約や共同声明によって政治的次元の和解は達成されたが、国民レベルでの和解は戦後 70 年経っても迷走し続けている。日中台韓の歴史家たちは歴史和解に貢献する役割を議論してきた。「知的和解」を迫及するために、①歴史家ネットワークを「知のプラットフォーム」に発展させる、②「和解」の歴史に光を当て、それを共有する、③多様な歴史解釈を抱擁しつつも、平和の価値を共有する歴史学「新史学」を創出するという 3 つの実践がもとめられている。

首藤もと子氏 (筑波大学名誉教授) は「地域紛争の平和的解決のための ASEAN の役割と課題」について、以下のように話した。ASEAN は 1967 年の発足当初から、「地域の平和と

安定」の促進を標榜していたが、2008年のASEAN憲章を経て、安全保障共同体としての制度も拡張し機能も多様化している。そうしたASEANの組織的拡張と機能の多様化は地域紛争の平和的解決に貢献しているか、紛争の類型を通して検討し、今後の課題について考察した。共通の意思とそれを支えるASEANIPR（平和と和解研究所）のような制度があれば、国家間紛争要因は沈静化が可能であり、“inclusive”な協力関係や包括的経済協力の枠組みが大切である。

高原明生氏（東京大学教授）は「ウクライナ危機への中国の立ち位置」について、次のように述べた。中ロは、対米戦略が最重要課題で、独裁的な指導者とその側近による意思決定、民主主義は失敗で、米国主導の国際秩序は危機にあり、カラー革命を危険視する点で一致している。2022年2月、ロシアによるウクライナ侵攻の翌日に行われた中ロ電話首脳会談において、習近平主席はプーチン大統領の決断への支持を表明した。しかし、9月半ばに行われた対面の首脳会談では、習氏は立ち位置を修正し、疑問と懸念をプーチン氏に伝えるに至る。ウクライナの反転攻勢とロシアの力不足、中国経済の苦境から対応米日関係の改善の必要性が影響した。2023年3月からは第3局面に入り、中ロ経済協力の強化の共同声明を出し、中国・中亜首脳会合を「唐の都長安」で開催した。

廣瀬陽子氏（慶應義塾大学教授）は「ウクライナ戦争の原因とその他戦争との関係」について、以下のように話した。開戦理由として、プーチン大統領のウクライナに対する勝手な歴史観、ソ連解体後の屈辱的な30年間の被害妄想、ウクライナを甘く見てロシアが歓迎されるすぐに手中に落ちるとしており、欧米の結束を想定せず、米国は弱いと判断していたこと、プーチン大統領への間違った情報のインプットなどがあげられる。旧ソ連の多くの紛争へのロシアの力による現状変更への適切な対処ができなかったこと、2014年のロシアによるクリミア併合とウクライナ東部の危機への対ロ制裁が超克されたことも影響している。ウクライナ戦争を考える上ではかなり包括的な検討が必要であり、これまで積み残してきた問題と構造的な問題が解決されない限り、惨事は繰り返される。特にウクライナ戦争前に起きていた地域紛争や、ウクライナ戦争の背後で起きている混乱に目を向けてゆくことも肝要だと思われる。1991年12月のアルマ・アタ宣言が守られていれば、旧ソ連のほとんどの戦争・紛争はなかったかもしれない。戦争の構造的な問題を考えなければ、負の連鎖は続く。

羽場久美子氏（青山学院大学名誉教授、連携会員）は「ウクライナ戦争がアジアに与えた影響と、日本からの平和構築」について次のように述べた。いま世界は大変動期にある。ロシア・ウクライナ戦争とアジアの戦争準備は密接に関わっている。米国の覇権が世界を主導する時代は終わりつつある。その恐怖から、欧日は躊躇しつつも、中印の成長による欧米近代の危機におびえ、軍事力で自国を守ろうとしている。時代と経済は新興国に有利になっている。経済対軍事で、短期的には米欧の軍事戦略が勝つ可能性もあるが、その場合、日本とアジア、欧州も核を含む地域紛争で多大な犠牲が出る。勝者はアメリカで、欧州とアジアは敗北する。いかに平和と繁栄をつくるか、ミサイル軍拡でなく、経済共同、外交（信頼醸成）、地域の繁栄により米・G7と、Global Southに橋を架けることが日本の役割である。沖縄をミサイル配備するのではなく、アジアの平和と市場の中心として20億のハブとすることを提案したい。

溝端佐登史氏（京都大学客員教授/立命館大学、第1部会員）は「国家主導資本主義と経済制裁－脱グローバル化の行方」について以下のように話した。新型コロナ感染症、米中対立、ロシアのウクライナ侵攻、いずれもが資本主義における強力な国家主導性の発動を

指し示しており、1990年代に見られた自由市場の政策スタンスは後退している。同時に、世界経済において経済制裁は常態化し、国際貿易・国際金融の分断化が進んでいる。ロシアに経済制裁がどのように作用しているのかを検討することで、国家主導性の強さと、脱グローバル化の行方を考察した。

2人のコメンテーターの発言・全体討論・閉会の辞

続いて、2人のコメンテーターが各10分ずつ発言した。三重野文晴氏（京都大学教授、連携会員）は「世界経済、ASEANの経済的側面から」について、中国と東アジアにおける富の流れ（国際資本フロー）の変化について述べた。我部政明氏（琉球大学名誉教授、連携会員）は「沖縄の近代政治から」として、各発表者の話についてコメントした。

その後、全体討論の時間となったが、コメンテーターと参加者からの質問に、6人の発表者が回答するだけで、30分も延長しながらも時間切れになってしまった。発表者の多くが15分の制限時間を守らず、どんどん時間が送れても司会者もまったく注意しなかったのは、自然科学分野との大きな習慣の違いを感じた。

最後に、全体討論総合司会の貴志俊彦（京都大学教授、連携会員）が、「紛争の最大の犠牲者は、地域社会の市民である。これまで紛争は紛争当事国の観点から語られがちであった。しかし、市民社会の犠牲を最低限にするため、SDGs「誰一人取り残さない」形での、市民の側からの平和的解決を追求する会合としたい」と述べて閉会となった。

「プラスチックのリサイクルと有害化学物質」の内容紹介とコメント

神奈川民間懇 北山宏之

大学院時代の知り合いの方から依頼され、「プラスチックのリサイクルと有害化学物質」（「環境と公害」2023年4月号掲載）の著者：木村-黒田純子さんの記事（全6ページ）の要約紹介とコメントを以下にまとめた。

「はじめに」では現代社会でプラスチック（合成樹脂）は、人間の生活に深く浸透しているが、資源問題、海洋汚染、マイクロプラスチックによる環境汚染などの問題が明らかとなり、プラスチックの大幅削減や安全なリサイクルが緊急課題となっている。ここではプラスチックのリサイクルについて、プラスチックに含まれる有害化学物質を中心に現在わかっている概要を紹介している。

「リサイクルへの取り組みと問題点」では、日本では3R（Reduce:削減、Reuse:再利用、Recycle:再資源化）+Renewable:石油由来のプラスチックから生物由来の有機資源を原料としたバイオプラスチックへの代替推進、という「プラスチック資源環境戦略」（2019年）が発表された。

リユースについては、使い捨てプラスチックのリユースは、ドイツなどでリターナブルPETボトルとして実施されているが、日本ではボトルの劣化などの理由で実施されていない。PETボトルやリターナブルPETボトルのミネラルウォーターには、マイクロプラスチックが高率に検出されたことが報告されている。個人でPETボトルを再利用する人は多いが、マイクロプラスチックの放出の可能性もあるので、飲料用にはステンレスなどのボトルが適している。（初めて知った事実！）

リサイクルについては、日本のプラスチックのリサイクル方法としてマテリアル（廃プラ

スチックを溶かしそのままプラスチック原料として使用する)、ケミカル(廃プラスチックに熱や圧力を加えて化学的処理をして原料に戻してプラスチック原料とする方法)、サーマル(プラスチックを燃焼して熱エネルギーを利用する方法だが、地球温暖化の一因ともなっており、海外では認められていない)の3種類がある。日本でのリサイクルの現状は、有効利用率86%(内訳:マテリアル24%、ケミカル4%、サーマル71%で圧倒的にサーマルが多い。)非回収14%となっている。

プラスチックの製品は原料のモノマーだけでなく、複数の原料モノマーが使用されることがあり、その上多種類の添加剤が加えられている。何が含まれているのか、成分表示がないプラスチックを安全にリサイクルできるのだろうか?

マテリアル、ケミカルどちらのリサイクルにしても元のプラスチックに含まれる有害化学物質が再生過程で環境中に放出されたり、再生されたプラスチックに含まれる可能性がある。

「リサイクル以前に規制が必要なフッ素樹脂」では、フッ素樹脂は、耐火性、耐熱性、撥水性、防水性などの特性から、多様な用途で使用されているが、基本的に難分解性のため、永遠の化学物質とも呼ばれ社会問題になっている有機フッ素化合物(PFAS)に属している。

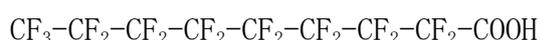
PFASは、約4700種あるが、分解性や毒性など、ほとんど調べられていない。このままフッ素樹脂の使用を続けることは重大な環境破壊や人の健康障害を起こす可能性があり予防原則に則った総合的な規制が必要だろう。フッ素樹脂についてはリサイクル以前にPFAS全体の規制が必要と指摘している。

PFASについては最近の神奈川民間懇の例会でも話題となり、化学に詳しい友人から以下のような簡単なまとめが提供された。詳しくは資料を読んで下さい、自然界には存在せず、極めて安定で厄介な人工物とのことだった。

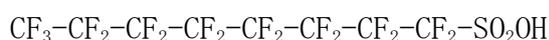
資料:前衛,p22(2023年6月号)

PFAS(パーフルオロアルキル化合物およびポリフルオロアルキル化合物)

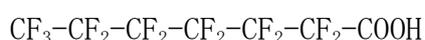
PFOA-ペルフルオロオクタン酸(Per Fluoro Octanoic Acid)



PFOS-ペルフルオロオクタンスルホン酸(Per Fluoro Octane Sulfonic acid)



PFHxS-ペルフルオロヘキサンスルホン酸



用途:C-F結合が強く化学的に安定なので泡消火器に使用 米軍が使用

ダイキン工業はテフロンコーティングに使用

他には紙にPFASをしみこませ油成分がしみこまないファーストフード容器

雨をはじく衣服 瓦の表面劣化を防ぐ

環境の残留期間 環境下では数十年~数百年

国内メーカー ダイキン工業

人体への影響

1. ワクチン効果の減弱(破傷風とジフテリア) コロナに対しては未検証、
2. 脂質代謝異常
3. 胎児・新生児の発育抑制

4. 腎臓ガン PFOA 濃度 4ng/ml 未満に対し 7.3~27.3ng/ml では 2.63 倍増化
汚染の酷い地域の血清検査

大阪	ダイキン淀川製作所近辺	PFOA の血中濃度	79.7ng/ml
沖縄	嘉手納基地周辺	PFOS+PFOA+PFHxS	13.9+3.3+16.3ng/ml
東京	横田基地周辺	PFOA+PFOA	50ng/ml
仙台	(汚染無し)		4.6ng/ml

コメント：利便性の裏に潜む深刻な問題を実感できた。リサイクルしなくても自然に返っていく材料の展望があるのか知りたいものだ。

「横浜ノースドックへの米軍揚陸艇部隊配備反対連絡会」結成集会の報告

後藤仁敏

横浜港のど真ん中、瑞穂ふ頭のノースドックに米陸軍の揚陸艇部隊が配備される問題で、7月14日、「横浜ノースドックへの米軍揚陸艇部隊配備反対連絡会」の結成集会が開催され、38人が集まりました。

共同代表の私が、「カジノ誘致を撤回させてホットしていたら、今度は米軍の出撃基地がみなと横浜の中心部につくられようとしています。身近で戦争の準備が始まったと感じました。カジノはお金を奪うだけだが、米軍基地は命を奪います。戦争が始まれば横浜を再び焼け野原にします。この運動は県民の命を守るたたかいです。配備撤回まで頑張りましょう」と開会挨拶しました（図1）。



図1 開会挨拶する私

ついで、弁護士森卓爾共同代表が、県民署名の経緯、狙いと意義について報告し、「県民署名実行委員会と連絡会が車の両輪となって、署名だけでなく、集会やデモも行ない、運動をすすめよう」と呼びかけました。

飛田久男事務局長は、連絡会結成までの経過、申し合わせ事項、事務局団体（神奈川県平和委員会、安保廃棄神奈川統一促進会議、革新懇横浜連絡会、神奈川区革新と平和の会、横浜労連）について報告し、今後の取り組みを提案しました。

質疑応答の後、民医連、神奈川区革新と共同の会、土建、共産党県委員会などから次々と決意表明がありました。

最後に、菊谷節夫県平和委員会理事長が「チラシや動画をつくって宣伝し、8月下旬には集会やデモをして、運動を盛り上げ、9月末までに10万の署名を集めよう」と閉会挨拶しました。県民署名の成功に向けて多くの皆様のご協力を切にお願いします。

以下は、7月30日に桜木町駅での宣伝・署名行動での私の訴えの原稿です。

横浜ノースドックへの米軍揚陸艇部隊配備反対連絡会からの訴え

桜木町駅ご利用の皆さん、ご通行中の皆さん、私たちは横浜ノースドックへの米軍揚陸艇部隊配備反対連絡会です。

皆さん、この桜木町駅からわずか2kmの横浜港のど真ん中、瑞穂ふ頭のノースドックに

アメリカ陸軍の揚陸艇部隊が配備されること、ご存知でしょうか。1月11日の日米の防衛・外務担当閣僚の会合「2+2」、日米安全保障協議委員会で合意したと突然公表され、翌日、横浜市と神奈川県に伝えられ、たいへん驚きました。横浜市も神奈川県も事前にまったく知らされないで、突然に決定された、市と県に伝えられました。揚陸艇 13 隻、兵士 280 人が常駐する新基地がこの春から新設されるというのです。4月16日には幹部 5 人の常駐が始まり、280 人まで増やされます。

私たち横浜市民は 2 年前の横浜市長選で、瑞穂ふ頭の対岸の山下ふ頭に IR カジノが作られようとしたことをカジノ反対の山中市長を当選させて、撤回させました。カジノは私たちからお金を奪うだけですが、米軍基地は命を奪います。揚陸艇は小型ではなく、長さ 53 m もあり、戦車を 5 台も積み、兵隊も武器も弾薬も積んで敵地に揚陸します。揚陸艇部隊の米軍基地は、戦争が始まれば最初に攻撃の的になります。市民の命も財産も奪い、横浜を神奈川を再び焼け野原にする危険性があります。アメリカの高官が「台湾有事は 2025 年だ」「2027 年には中国は台湾を武力攻撃する」と戦争を煽っています。そうなれば、米軍基地のある沖縄が、そして神奈川、横浜が戦場になります。

地元神奈川区と鶴見区の神奈川 3 区市民の会は、市議会に揚陸艇部隊配備の撤回を求める意見書を出してほしいと請願しました。立憲民主党と日本共産党、無所属の井上さくら議員と大野トモイ議員は賛成しましたが、自民党・公明党・維新の議員は「両国家政府が決めたことに地方議会が口をはさむことではない」と憲法 92 条にある地方自治の本旨を否定しました。3 区市民が 1500 人の署名で求めた意見書は 6 月 1 日の市議会本会議で 62 対 22 で否決されました。許しがたいことです。

もともと瑞穂ふ頭は戦前に横浜港の中心となるふ頭として造られたものでした。ベイブリッジからまっすぐ横浜港に入るとここに着きます。山下ふ頭も大棧橋も新港ふ頭も左に大きく舵を切らないと接岸できません。ここが使用できないとみなと横浜の発展はないと横浜市は戦後一貫してノースドックの早期全面返還を求めてきました。今回の揚陸艇部隊の配備は米軍基地の強化で、恒久化につなげるものです。基地の早期全面返還を求めるなら、市議会は私たちの請願を採択すべきです。

しかし、私たちの運動は今、全県に広がっています。6月29日に福田護弁護士、山根徹也横浜市大教授らが記者会見し、ノースドックへの米軍基地撤回を求める県民署名を9月末までに10万筆集めようと呼びかけました。私たちは今ここでこの署名を集めております。リーフレットも配布しています。皆様のご協力を心よりお願いします。

日本科学者会議第 54 回定期大会の報告

支部代議員 飯岡ひろし

5月27日(土)、6月11日(日)の2日間にわたって日本科学者会議の定期大会がオンラインで開催されました。40人をこえる代議員、全国役員、傍聴者(神奈川支部は支部大会で代議員に選出された飯岡、地区幹事の後藤)が参加しました。

大会冒頭に大竹代表幹事から広島サミットについて「最も注目された核兵器への取り組みは、「ロシアの核兵器による威嚇」、ましてや「使用は許されない」と、核廃絶ではなく核の存在を肯定し、『核抑止』に頼った方向を打ち出し、ウクライナ戦争は終わるどころか長期戦に舵をきった」こと、科学者会議には「改憲問題や日本学術会議問題、原発問題、国際卓越研究大学の問題など、十分に検討すべき課題には、科学的理論的な日本科学者会議の取り組みは、今後、益々必要となって」いるとの発言がありました。

その後、決議案の討議に入って、私立学校法改正案の国会で成立したことから「私立学校における経営の民主化が進められるよう制度の運用に注目するとともに、必要かつ適切な場合は個別事案についても民主的運営がなされるよう働きかける」と追加するとの提案がありました。「バーチャル大学院（仮称）」からは「JSA 学際研究・市民科学発展プログラム」への名称変更の提案。多種多様な分野の研究者が結集する JSA の特性を活かし、専門分野を超えた学際研究の発展を促進し、特に広い視野を持つ若手研究者の育成を図ることを重要な目的の一つと位置づけると名称の提案がありました。24 総学は 11 月 19 日から 3 週間。参加登録者 629 人に対して、延べ参加者数は 2 倍以上の 1,419 人との報告がありました。しかし、会費の滞納、事務局体制などの課題などがあって、会員の減少は 100 人をこえている。退職後に退会する人が多いなど、会員とのつながりが大事だとされました。「知的関心に対しては大いに応えているが、それが会員拡大に結びつかないのは、日常的な結びつきが多忙化も含めて弱まっているのが大きい。東京支部は、基礎組織を重視して、分会活動を中心とを言い続けているが、それが困難で、なかなか再建できていない」という発言がありました。コロナ禍でオンラインの機会が増えていることが、会員との結びつきを弱めているのではないかという意見が多く支部からありました。

支部の活動や状況では「安全保障、貿易管理に関することが決定された。国内でも、留学生、外からお金をもらっている人に情報を伝えてしまうと刑罰の対象になる。その取り締まりを大学が率先してやれ」「原原発回帰の政策が目立っており、多くの運動が全国各地で起きつつある大変な問題なので、起草委員会で検討してほしい」「引きこもりの研究会もしている。京都支部では若干名の会員増加があった」「大学教員が非常に多忙で内向きになっているが、元気な人に科学者会議を紹介してもらっている。そうした元気な人を核に働きかけるという方針を立てた」「市民と繋がっていく点。商店街のアーケードを利用して、数人集まって、プロジェクターを使って話し合っていると人が集まってくる。商店街の企画だから、謝金も出してもらって継続している。Win-Win の関係。商店街の宣伝にもなる。どこの支部でも簡単にできる」などの発言がありました。

神奈川からは二日目に横浜港のノースドックに米軍揚陸艦部隊の配備が決定され、これに反対する活動などが紹介され、午前中は引き続き支部活動の報告、会員拡大について論議されました。午後からは、決議、予算案（事務所経費と移転）、役員選出、大会決議案が提案され、すべて一部修正され議決されました。

このさい、大会に参加した感想をいうと、議案を提案している全国役員のみなさんの苦労はよくわかりますが、役員同士での論議になる場面がしばしばあったことです。私など小心者はそれだけでも、引けてしまいます。報告では支部通信を発行しているのは 25 支部ということです。むしろ、困難ななかで活動している支部役員が愚痴をいえる大会であっていいと思います。

【決議】

日本学術会議の会員任命拒否を速やかに撤回し、組織改革を断念することを強く求める

政府は去る4月20日、日本学術会議法改正案の第211国会への提出を見送った。これは、日本学術会議（以下、「学術会議」）が4月18日付の答申「日本学術会議のあり方の見直しについて」で強く批判したように、学術会議の自主性・自律性を脅かす法改正であることから、国内外の科学者のみならず教育研究者さらには多くの学術団体や広範な市民による強い批判を受け、政府が法改正の強行を見送らざるを得なかったものである。

政府が学術会議法の改正に踏み込んだ直接のきっかけは、2020年10月に会員候補者6人の任命を菅首相（当時）が拒否し、学術会議法違反の状態を生み出したことにある。学術会議は政府に対して任命拒否の理由を求め、会員候補者6人の速やかな任命を強く求めたが、政府は学術会議の組織の在り方に問題があるとして論点をすり替え、学術会議の組織改革の検討に入った。これに対して、学問の自由と自律を侵害し違法性が危惧される任命拒否を撤回せよとの声が全国に広まり、学術界のみならず国民からも大きな憤激が巻き起こったのである。それにもかかわらず、学術会議法を改正して政府が介入できる手がかりをつくろうとしている政府・与党の理不尽な行為に、学術会議の毅然とした対応と世論からの厳しい反撃が同法案の国会提出を見送らせたといえる。しかし、今国会への法改正提出の見送りにより問題が解決したわけではない。政府・与党は、学術会議法改正の暁には学術会議を民間法人化する意図を露わにしておき、それはナショナルアカデミーとしての学術会議の国際的地位を低下させるだけでなく、学術界の分断や弱体化を来す恐れがあるものである。

そもそも、学術会議は、科学者の戦争協力や権力者におもねる態度などについて強く反省し設立された「わが国の科学者の内外に対する代表機関」（学術会議法2条）であり、「わが国の平和的復興、人類社会の福祉に貢献し、世界の学界と提携して学術の進歩に寄与することを使命と」する団体である（同法前文）。学問研究は客観的真実を追求するものであり、そのためには既存の理論や所与の社会的実態等に対して批判的・懐疑的な立場からも検討・検証を行うことがその生命である。そのため、外部からの干渉を排除し、「独立して」科学に関する重要事項を審議し、その実現を図ること、及び科学に関する研究の連絡を図り、その能率を向上させることを職務として行う（同法3条）とされているのである。

学術会議は4月18日の勧告において、「日本学術会議のあり方を含め、さらに日本の学術体制全般にわたる包括的・抜本的な見直しを行うための開かれた協議の場を設けるべきである」と主張している。これは政府・与党への説明の場ではなく、学術会議と政府間のみにとどまらず広く学術界や市民の参加も可能となる対等平等の立場が保障されるものでなければならない。さらに協議の内容は、学術と政治・産業・市民社会との適切な関係、政府と学術会議との関係性、学術政策の意思決定のあり方など幅広い課題について行われるべきものである。それは、これらが日本の学術の発展にとって不可欠であり、今後の日本の学術体制の方向性を左右すると考えるからである。

日本科学者会議は、日本の科学の自主的・民主的発展につとめ、その普及をはかることを目的としており、学術会議協力学術研究団体として議論の一翼を担うことをあらためて決意するものである。さらに、政府の学術に対する干渉は、学問や言論の自由の束縛を意図しており、ひいては科学技術を戦争の道具へと貶めることに繋がることから、政府による日本学術会議の組織改革については引き続き注視を続け、法案の国会提出を永久に断念することを強く求めるものである。以上、決議する。

2023年6月11日 日本科学者会議第54回定期大会

59期第2回幹事会がオンラインで、7月17日(月・祝)に開かれました。幹事27人中21人が出席しました(詳細は、JSAウェブサイト→会員専用→議事要録を参照ください)。

幹事会は10時に開会し、開会挨拶を志田陽子代表幹事から受けました。その後、議長に亀山さん(沖縄)、後藤さん(神奈川)、書記に中塚さん(愛知)、竹中さん(京都)を選出しました。議事日程案が竹内事務局長より提案・了解された後、出席幹事全員の自己紹介を受けて、議事に入りました。

まず、事務局からの報告として、事務局日誌、会員数と会費納入状況(6月末現在)、月別収支状況が笹倉総務財政部長から報告されました。また、第54回定期大会について、事務局ニュース7月号に掲載した「定期大会の概要」や大会決定の資料についての報告が山崎組織部長からありました。

59 期運営体制・幹事の任務分担案が山崎組織部長から提案され、承認されました。幹事ができるだけ部に所属し、部の活動を通じて組織運営に携わることとしました。59 期の事務局次長の役割分担は以下のようになります。総務財政部長：笹倉さん、組織部長：山崎さん、研究企画部長：畑さん、学術体制部長：石井さん、国際部長：椎名さん、社会的活動部長：三木さん。ただし、総務財政部については、部長は笹倉さんですが、総務を笹倉さん、財政を椎名さんが分担し、幹事3人が部員で協力するということが確認されました。また、幹事から、それぞれの部会をしっかりと開くべきだという意見が寄せられ、59期では部会を適宜開く等の活動の活性化を行うということが確認されました。

竹内事務局長より「59期活動方針に関する指針」が示されました。定期大会の決定をもとに、活動方針のポイントを整理したもので、これに対し、幹事から指針の各項目を深める活動の提案などがありました。各部から定期大会で承認された予算項目についての細目額や活動内容などの具体的な課題が提案され、意見交換ののち細目額は承認されました。特に、組織部からは組織強化に関連して、幹事が会員拡大の目標を具体的に持つなどの提案が、社会的活動部の関係では7月29日に原水爆禁止2023年科学者集会を開催する旨の紹介などがありました。また、研究企画部関連では、今期の研究助成委員が提案・承認されました。59期から試行が予定されている学際研究・市民科学発展プログラムについては、研究企画部の予算を使用することも了承されました。また、早急に試行を開始するために、諸準備(規程などの設定)は幹事会の承認を受けつつ、テーマやサポーターリストの募集を行うことが確認されました。

以前から議論になっている会員名簿を全国事務局で管理する件については、58期の幹事会に提案された「会員名簿の管理に関する申し合わせ(案)について」の説明があり、引き続き幹事からの意見を求める旨、組織部長からの説明を受け、意見交換を行いました。

『日本の科学者』編集委員会より、『日本の科学者』の出版社を来年1月号から「本の泉社」から変更する必要があるとあり、現在次の出版社を検討中であること、出版時期がずれる可能性があることが報告されました。理由は「本の泉社」の事情により『日本の科学者』の発行から手を引くことになった、経営上の困難が原因との説明がありました。幹事から過

去の出版データの扱いについて質問がありましたが、「本の泉社」との契約が終わっても2016年以降の『日本の科学者』の電子データについてはJSAが持っているのでは、見れなくなることはないとのことでした。また、長野編集委員長から、編集委員長を務めるのは今期までにしたい、今期中に幹事会で推薦できる後任を決めてほしいとの発言がありました。

情報通信室関係では、メンバーに変更（新事務局長、新総務財政部長）があったことがリストで報告されるとともに、JSAのメーリングリストのメールが届かない事例が出たため（Google のなりすまし対策が強化された結果）、JSAのメーリングリストを一部Googleグループ等外部メーリングリストを使っている（これまでと異なり、情報通信室が関与しない）ことが報告されました。

審議事項では幹事会常置の起草委員会委員の提案と事務所移転委員会の委員に関する提案があり、いずれも承認されました。事務所移転委員会については、WGへの追加の委員があるときは幹事会に承認を得ることが確認されました。資料の廃棄などはリストを作りJSA内に諮るべきとの提案もありました。役員選考ワーキンググループについて、事務局からはこれまで同様の「ワーキンググループ設置申し合わせ（案）」の提案が行われず、事務局内で検討中、幹事会にはMLを利用して8月めどで提案する旨、報告が行われました。幹事から、今期は編集委員長の選考のため、できるだけ早くワーキンググループを発足させる必要があるとの意見が出されました。事務局では、8月の事務局会議で申し合わせ（案）を作成し、迅速に対応できるように臨みたい旨、追加の報告がありました。

このほか、定期大会での会則変更に伴って、ホームページの関連部分の改正を求める意見もあり、見直しを進めることが確認されました。

閉会にあたり、立石雅昭代表幹事から挨拶がありました。

（日本科学者会議事務局ニュース59-3号 2023. 8. より）

横浜市三殿台遺跡・考古館見学会のお知らせ

後藤仁敏

横浜市磯子区の岡村小学校に隣接する三殿台遺跡は、縄文・弥生・古墳の3つの時代の住居跡が保存された貴重な国の指定遺跡です。住宅地に囲まれながらも、標高55メートルの丘の上にあり、南東に東京湾と房総半島、西に富士山や丹沢の山並みを見ることができます。

1899年に「屏風ヶ浦岡村貝塚」として報告され、その後何度か小規模な調査が行われたのみでした。1961年に岡村小学校の校地拡張予定地となったことから、和島誠一を主任として、生徒・学生・市民ら延べ5000人が参加して、約1万平方メートルある丘の上全体の大規模な発掘調査が行われました。

調査の結果、縄文時代中期（4500年前）から古墳時代後期（1400年前）までの約270の竪穴住居跡、丘の斜面には貝塚、土器や石器や装身具が発掘されました。遺跡全体は4万平方メートルにも及ぶと推定されているが、そのうち1万平方メートルが、保存されました。発掘された遺跡の東側の一部を校地とし、大部分は史跡とされたのでした。

1966年に国の指定遺跡となり、遺跡を保護し、住居跡保護棟、展示棟、復元住居が整備

され、翌年、横浜市三殿台考古館として公開されました。270の住居跡は、8軒が縄文時代、43軒が古墳時代、残りの大部分が弥生時代のものでした。

考古館の展示室に入ると、発掘された土器などを見ることができます。入り口には、この遺跡を最初に「屏風ヶ浦岡村貝塚」として報告した論文、1961年に行われた大規模発掘の様子、竪穴住居の立て替えの過程などが写真で展示されています。中学生・高校生・大学生や市民が参加した大規模発掘は、1962年から始まった野尻湖発掘を先取りしたような感じです。

縄文時代の遺物では、縄文土器、骨角器、装飾品、割られたイノシシの骨、北川貝塚の剥ぎ取り標本と出土した貝殻が展示されている。当時の人びとが、狩猟、漁労、採取生活をしてきた様子が想像できます。弥生時代の遺物では、壺や甕（かめ）、石器、炭化米、青銅製の装身具などが見られます。古墳時代では、野焼きの土師器（はじき）だけでなく、窯で焼いた須恵器（すえき）、鉄製品が出土しています。床にはかまどが築かれ、甑（こしき）と甕を使って米などを蒸して食べていたことが分かります。

眺めのよい丘の上で、古代人の生活に想いを寄せ、楽しいひと時を過ごしましょう。参加希望者は申込み下さるようお願いいたします。

日時：2023年8月27日(日)10時～12時30分頃

集合：横浜市営地下鉄蒔田駅改札に10時集合

交通：蒔田駅南口から徒歩約20分

内容：横浜市三殿台遺跡と考古館の見学

持ち物：筆記用具、交通費、水分、昼食など

案内：ボランティアガイドの方

参加費：200円（保険料を含む、入場料無料）

主催：神奈川野尻湖友の会、神奈川地学ハイキング、地学団体研究会神奈川支部

申込先：電話 090-7175-1911、E-mail: goto@kd5.so-net.ne.jp 後藤仁敏



行事案内

☆8月24日(月) 16:00～17:00 **かながわアクション署名街宣運動予定**（気温高い時間帯を避けています） 場所：JR戸塚駅階上連絡通路 「県民署名」実行委員会の署名用紙・リーフレットの請求は高梨までご連絡ください。連絡先：080-8818-1431（高梨さん）

☆8月24日(木) 18:00～ **憲法改悪を許さない 総がかり行動 署名街頭宣伝** 場所：新宿駅 東南口 共催：戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会／9条改憲NO！全国市民アクション

☆8月25日(金)～27日(日) 9:00～16:30 **伊勢原市民平和展** 会場：伊勢原市民文化会館展示室（小田急線伊勢原駅徒歩13分） 主催：実行委員会 問合せ：0463-93-8774（浜本さん）

☆8月25日(金) 13:00～ **福島原発かながわ訴訟第1陣 事前集会**：13時～13時30分 東京高裁前 原告団・弁護団の入廷行進を歌と音楽で力づけます。13時40分～ 傍聴抽選整理券交付締切 14時～第20回口頭弁論 東京高裁 101号法廷 原告及び被告双方の最終意見陳述が行われると17時頃までかかります。報告集会 裁判終了後 会場：日比谷コンベンションホール(日比谷図書館B1) 呼びかけ：福島原発かながわ訴訟を支援する会 (070-1316-4575)

☆8月25日(金) 14:00～16:00 **第21回AOBA文化フォーラム** 会場：青葉台コミュニティハウス1階多目的室（田園都市線青葉台駅徒歩5分） 講演：高山智（元朝日新聞モスクワ支局長）「ソビエトロシア観察50年・元特派員の語るウクライナ戦争の深層」 会費500円、学生無料 先着40人 予約制 主催：実行委員会 申込み・問合せ：080-2064-3574（山下さん）

- ☆8月25日(金) 14:00~16:00 **川崎市高津区原爆展プレ企画** 会場:てくのかわさき2階ホール 入場無料 主催:実行委員会 問合せ:090-1730-8927(竹内さん)
- ☆8月26日(土)~9月3日(日) 10:00~19:00 **第8回知ること未来が見える戦争の加害パネル展 特集展示:関東大震災時朝鮮人虐殺** 会場:かながわ県民センター1階展示室(横浜駅西口徒歩5分) 参加無料 主催:記憶の継承を進める神奈川の会(090-7405-4276、hiromatu914@yahoo.co.jp)
- ☆8月26日(土) 13:30~16:00 **JSA 東京支部主催 第1回新自由主義研究会** 報告:①村上研一氏(中央大学)「新自由主義と日本産業・経済の衰退」、②森原康仁氏(専修大学)「巨大プラットフォームの独占と新自由主義的統治性」 会場:専修大学サテライトキャンパス・スタジオB(小田急小田原線・向ヶ丘遊園駅徒歩1分、JR南武線・登戸駅徒歩7分) <https://www.senshu-u.ac.jp/social/satellite/> なお、オンラインでもご参加いただけますが、対面開催を原則とします。オンラインの接続情報は以下のとおりです。<https://u-tokyo-ac-jp.zoom.us/j/86029822553?pwd=Q3Vud2hnYktHaGMzL01mQWZlL24wZz09> ミーティング ID: 860 2982 2553 パスコード: 738801 主催:日本科学者会議東京支部
- ☆8月26日(土) 15:00~ **JCA-NET セミナー2023年8月 セミナー2 法が私たちの権利に背くときー米国の監視社会とジェンダーを事例に** 開催方法:オンライン 参加費無料 参加方法:オンラインは Jitsi-meet を使用します。オンライン会議室 Jitsi-meet のマニュアル<<https://www.jca.apc.org/jca-net/ja/node/93>> JCA-NET の会員メーリングリスト、セミナーメーリングリストに登録されている方は、当日30分前に、メーリングリストからの会議室案内をみてアクセスしてください。JCA-NET の会員以外の方でセミナーに初めて参加される方は予約が必要です。おなまえ、メールアドレス、参加希望のセミナー番号(複数可)を書いて、下記に申込みください。jcanet-seminar@jca.apc.org あるいは下記の申し込みフォーム(cryptpad のサイト)から申込みできます。<<https://cryptpad.fr/form/#/2/form/view/PImq8mcM0pAqQRWcC-bifoGW3pSMJ29LjXf0WSVIhpQ/>> 問合せ先:小倉利丸(JCA-NET 理事)、070-5553-5495、toshi@jca.apc.org
- ☆8月26日(土) 16:00~ **第五次厚木基地爆音訴訟勝利! 安保3文書撤回! 防衛予算増に反対する8.26 神奈川集会** 場所:大和市やまと公園(大和駅徒歩5分) 相模大野の駅までデモ行進 主催:厚木基地爆音防止期成同盟、第五次厚木基地爆音訴訟原告団、神奈川平和運動センター、原子力空母の母港化に反対し基地のない神奈川をめざす県央共闘会議(046-240-7450)
- ☆8月26日(土) 17:30~19:30 **第8回知ること未来が見える戦争の加害パネル展 会期中企画 榎蒼宇さん(法政大学教授)講演会「関東大震災100年ー朝鮮人虐殺と官民の植民地戦争経験」** 会場:かながわ県民センター2階ホール(横浜駅西口徒歩5分) 資料代500円 主催:記憶の継承を進める神奈川の会(090-7405-4276、hiromatu914@yahoo.co.jp)
- ☆8月27日(日) 10:00~12:30分 **第64回神奈川地学ハイキング・神奈川野尻湖友の会合同行事:横浜市三殿台考古館・遺跡の見学** 集合:横浜市営地下鉄蒔田駅改札口に10時集合 交通:蒔田駅から徒歩約20分 内容:横浜市三殿台遺跡と考古館(縄文時代から弥生時代、古墳時代までの住居跡とその復元、遺物)の見学 持ち物:筆記用具、交通費、水分、昼食など 案内:ボランティアガイドの方 参加費:200円(保険料を含む、入場料は無料) 主催:神奈川野尻湖友の会、神奈川地学ハイキング 参加申込み先:電話 090-7175-1911、E-mail: goto@kd5.so-net.ne.jp 後藤仁敏
- ☆8月27日(日) 13:00~14:30 **国・東電による海洋放出反対8・27全国行動** 会場:いわき市イオンモール小名浜前歩道(アクアマリン側) 主催:国・東電による海洋放出反対全国行動実行委員会 電話0246-54-8885 呼びかけ団体:いわき地区7者共闘(立憲民主党・日本共産党・社会民主党・いわき地方労平和フォーラム・いわき市労連・小名浜地区労・いわき地区交運共闘)
- ☆8月27日(日) 14:00~18:00 **「みんなの山下ふ頭に〇〇があったらイナ」プロジェクト発 中村桂子×吉見俊哉 対談 みなとから考える横浜のまちづくり** 会場:横浜市情報文化センター6階ホール(みなとみらい線日本大通り駅すぐ) 参加費無料 シンポジウムは14時~16時、船劇場視察は17時~18時(徒歩15分程度) 申込み:名前とメールアドレスを添え、ytug2023@gmail.comから申込みを 問合せ:090-3577-3160(古澤) 主催:横浜ボートシアター
- ☆8月28日(月) ①10:30~、②14:00~ **映画「わが青春つきるともー伊藤千代子の生涯」上映会** 会場:杜のホールはしもと多目的室(JR橋本駅北口ミウヰ8階) 一般1000円、大学生500円、障害者と介助者、高校生以下無料 主催:実行委員会 問合せ:090-4603-6081(末永さん)
- ☆8月28日(月) 18:00~ **憲法9条改憲NO! ウィメンズアクション** 場所:JR有楽町駅イトシア前 主催:戦争させない・9条壊すな!総がかり行動実行委員会 性差別撤廃Project Team
- ☆8月29日(火) 14:00~ **安保法制違憲かながわ訴訟第3回控訴審** 場所:東京高裁101号法廷 終了後、15時頃から、報告集会 会場:千代田区立図書館コンベンションホール(千代田区日比谷公園1-4) 連絡先:安保法制違憲訴訟かながわの会
- ☆8月30日(水) 12:00~13:00 **定例宣伝署名行動** 場所:桜木町駅野毛口、野毛ちかみち階段前 呼

びかけ：横浜ノースドックへの米軍揚陸艇部隊配備反対連絡会 連絡先：045-231-0103（神奈川県平和委員会 飛田久男）

- ☆8月30日(水) 19:00～ **JCA-NET セミナー2023年8月 セミナー3 フォローアップ** 開催方法：オンライン 参加費無料 参加方法：オンラインは Jitsi-meet を使用します。オンライン会議室 Jitsi-meet のマニュアル<<https://www.jca.apc.org/jca-net/ja/node/93>> JCA-NET の会員メーリングリスト、セミナーメーリングリストに登録されている方は、当日30分前に、メーリングリストからの会議室案内をみてアクセスしてください。JCA-NET の会員以外の方でセミナーに初めて参加される方は予約が必要です。おなまえ、メールアドレス、参加希望のセミナー番号(複数可)を書いて、下記に申込みください。jcanet-seminar@jca.apc.org あるいは下記の申し込みフォームから申込みできます。 <https://cryptpad.fr/form/#/2/form/view/PImq8mcM0pAqQRWcC-bifoGW3pSMJ29LjXf0WSVIhpQ/> 問合せ先：小倉利丸(JCA-NET 理事)、070-5553-5495、toshi@jca.apc.org2
- ☆8月31日(木) 16:00～19:00 『**ヨコハマ市民自治を考える会**』の定例会 会場：かながわ県民センター702号室(横浜駅西口徒歩5分) 市民自治に関心のある方は是非お越し下さい。問合せ：Eメール kura335200@star.ocn.ne.jp (倉田) 参加費300円
- ☆8月31日(木) 18:30～ **関東大震災朝鮮人・中国人虐殺100年 犠牲者追悼大会** 会場：文京シビックセンター大ホール(地下鉄後楽園駅すぐ) 主催：関東大震災朝鮮人・中国人虐殺100年犠牲者追悼大会実行委員会 連絡先：080-1142-2515 (関東大震災中国人受難者を追悼する会)
- ☆9月1日(金) 18:00～ **マイナ保険証の強制を許さない! デジタル庁前行動** 集合場所：東京ガーデンテラス紀尾井町(デジタル庁が入居しているビル) ビルの前西側、弁慶橋寄りに集合 主催：共通番号いらぬネット (連絡先：080-5052-0270)
- ☆9月1日(金) 18:30～20:30 **9・1 プレ企画「九条の会大集会 大軍拡反対! 憲法改悪を止めよう」の成功へ** お話：改憲の動きの現状と私たちの課題(高田健・九条の会事務局)、緊急事態条項改憲論の問題点(小澤隆一・九条の会事務局) 会場：文京区民センター2A 会議室(地下鉄春日駅すぐ) 参加費500円 主催：九条の会10・5大集会実行委員会 連絡先：03-3221-5075 (九条の会事務局)
- ☆9月2日(土) 10:00～11:30 **朝鮮人虐殺100年 神奈川追悼会** 場所：久保山墓地(管理事務所左手奥) 関東大震災殉難朝鮮人慰霊之碑前(京急黄金町駅前より横浜市営バス32系統「保土ヶ谷車庫行」久保山霊堂前下車、保土ヶ谷方面に徒歩5分) 主催：関東大震災朝鮮人虐殺の事実を知り追悼する神奈川実行委員会 連絡先：housenka.kanagawa@gmail.com
- ☆9月2日(土) 13:00～16:40 **神奈川革新懇夏の活動交流会** 会場：川崎総合自治会館 参加費500円 全体会議 活動報告：家子寿(代表世話人)、情勢報告：田母神悟(代表世話人、日本共産党県委員長)、しょめい隊、世代継承、民青などの発言 8つの分散会 連絡先：080-5831-8179 (斉田さん)
- ☆9月2日(土) 13:30～16:00 **大学習会「憲法改悪と軍拡にストップを！」** 会場：第二米林ビル5階会議室(横浜駅徒歩8分) オンライン講演：神谷武弘(緑ヶ丘保育園園長)「沖縄の今から学ぶ」講演：高橋由美(弁護士)「改憲のねらいと現状」 主催：日本共産党神奈川県保育・子育て後援会 申込み・問合せ：045-432-2101 (日本共産党神奈川県委員会内)
- ☆9月2日(土) 19:00～ **関東大震災朝鮮人・中国人虐殺100年 国会キャンドル集会** 場所：国会正門前 主催：関東大震災朝鮮人・中国人虐殺100年犠牲者追悼大会実行委員会 連絡先：080-1142-2515 (関東大震災中国人受難者を追悼する会)
- ☆9月3日(日) 14:30～16:00 **横浜の関東大震災一流言・虐殺の事実を知り、考える** 会場：神奈川県地域労働文化会館2階AB会議室(地下鉄阪東橋駅徒歩2分、京急黄金町駅徒歩5分) 資料代500円 講師：後藤周さん(関東大震災における朝鮮人・中国人虐殺の研究者) 主催：かながわ歴史教育を考える市民の会 後援：神奈川人権センター、神奈川平和運動センター 連絡先：090-8818-1431 (高梨)
- ☆9月3日(日) 17:30～ **関東大震災朝鮮人・中国人虐殺100年 国際交流シンポジウム** 会場：在日大韓基督教会川崎教会 テーマ：関東大震災におけるレイシズムとジェノサイド—国家の責任を問い、歴史を世界の人々と共有する為に 報告者：朝鮮半島・中国・日本の研究者、弁護士、市民活動家 主催：関東大震災朝鮮人・中国人虐殺100年犠牲者追悼大会実行委員会 連絡先：080-1142-2515 (関東大震災中国人受難者を追悼する会)
- ☆9月4日(月)13:00～14:00 **かながわアクション署名街宣運動予定** 場所：相鉄線似た俣川駅 15:00～ 場所：県庁前スタンディング(オモニ会連絡会) 「県民署名」実行委員会の署名用紙・リーフレットの請求は高梨までご連絡ください。連絡先：080-8818-1431 (高梨)
- ☆9月4日(月)～8日(金) 9:00～17:00 (初日は11時～、最終日は15時まで) **川崎市高津区原爆展** 会場：高津区役所(JR武蔵溝ノ口駅徒歩5分) 入場無料 主催：実行委員会 問合せ：090-1730-8927 (竹内さん)
- ☆9月9日(土)13:30～16:00 (13:00開場) **平和をねがう講演と音楽のつどい 「呪いのことばの解**

- きかた～主権者であることを手放さずに歴史の転換点に向き合う」 会場：茅ヶ崎市民文化会館小ホール（茅ヶ崎駅北口徒歩10分） 講演：上西充子さん（法政大学キャリアデザイン学部教授） 音楽：小室等さん（フォークシンガー、作曲家） チケット：前売り500円 当日700円 大学生以下無料 申込・連絡：090-6489-3739（林）、0467-85-7182（宮澤） 主催：九条の会・ちがさき
- ☆9月9日（土）14:00～17:00 **9・9 東京の大学人・研究者のつどい 大学・研究機関の軍事動員は許さない** 会場：日本共産党本部多目的ホール（代々木駅徒歩3分） リアル+オンライン開催 講演：井原聰（東北大学名誉教授）「大学・研究機関の軍事動員と大軍拡」、浜田盛久（火山研究者）「研究機関で進む軍学共同の事例」 17時から17時20分まで、東京学研の総会を開催 オンライン参加者のみ事前申込みが必要。参加方法：次にメールで申し込みください。tokyogakken@gmail.com 共催：9・9 つどい実行委員会、東京の大学人・研究者日本共産党後援会
- ☆9月10日（日）14:00～17:00 **憲法連続講～混迷する岸田政治を問う オンライン開催 第2回 ③「出入国管理に対する憲法的統制の実現に向けて～2023年入管法改定を中心に」** 報告者：高佐智美さん（青山学院大学教授）、④「マイナンバーはなぜ問題か?世界の動きにも触れて」 報告者：田島泰彦さん（元上智大学教授） Zoomアプリによる集会です（参加無料） 参加予定の方は、kenponet103@gmail.comまでご連絡ください。主催：憲法ネット103 <https://kenponet103.com>
- ☆9月10日（日）13:30～15:20 **海老名平和委員会第7回総会記念講演 「神奈川県内の基地強化と日米軍事一体化の現状」**（仮） 会場：海老名市文化会館351多目的室 講師：菅沼幹夫さん（神奈川県平和委員会事務局次長） 平和委員会会員以外の方の参加大歓迎 資料代500円 総会15:30～16:40 連絡先：海老名平和委員会 代表者 白神薫 携帯090-1857-3279
- ☆9月10日（日）15:30～集会 16:00～デモ **税?ダメ!絶対!デモ in 横浜** 集合：桜木町駅前広場 15:30 集会 16:00 デモ出発 桜木町駅前広場→栄本町線左折→さくら通り右折→国際大通り右折→海岸通り左折→象の鼻パーク 流れ解散 18:00～ 山本太郎とおしゃべり会 会場：横浜市教育会館4階ホール 主催：れいわ新選組
- ☆9月10日（日）16:00～16:30イベント、16:30～17:30パレード **平和なまち、横浜が大好き！ 米軍新部隊配備反対の10万筆県民署名を成功させよう！ Bye Bye ノースドックパレード ハマの港に米軍基地は要りません！** 16時から、桜木町駅前広場でイベント 16時30分～17時30分、臨港パークまでパレード、現地解散 主催：9・10ノースドックパレード実行委員会 連絡先：090-4703-6422（伊藤さん）
- ☆9月14日（木）17:00～18:00 **第2回栄区総がかり行動宣伝行動** 場所：本郷台駅前広場 主催：大軍拡・大增税ストップ栄区アクション（事務局 090-1258-4710、筒井）
- ☆9月14日（木）18:00～21:00 **福島原発事故と UNSCEAR 報告：過小評価される放射線被曝**（新ちよぼゼミ） 講師：黒川眞一さん 大学共同利用機関法人（高エネルギー加速器研究機構名誉教授） 会場：スペースたんぼぼ 参加費（資料代含む）800円（学生400円） 高橋セーフビルの1階 JR水道橋駅西口から5分 予約の受付窓口：たんぼぼ舎（水道橋）TEL 03-3238-9035（上記に電話していただき「受付番号」をもらってください）
- ☆9月15日 18:30～21:00 **秘密保護法の大改悪を許さない！ 日本を「死の商人国家」とするセキュリティ・クリアランス束ね法案に反対する 9.15 市民大集会** 会場：文京区民センター2A（地下鉄春日駅、後楽園駅） 基調報告：井原聰「セキュリティ・クリアランス有識者会議中間論点整理を読み解く」 報告：海渡双葉「セキュリティ・クリアランス法案は秘密保護法を経済安保4分野に拡大する!」、三宅弘「個人情報保護、労働法、公文書管理制度、原子炉等規制法、不正競争防止法、特許非公開、輸出管理制度までが改正される!」、杉原浩司「武器産業を中核に日本版「軍産学複合体」=死の商人国家が現実!」 共催：秘密保護法対策弁護団（海渡雄一 03-3341-3133）、経済安保法に異議ありキャンペーン（杉原浩司 090-6187-4407）
- ☆9月15日（金）18:30～20:30 **神奈川弁護士会主催 憲法問題シンポジウム「戦争ではなく平和の準備を」** 講師：青井未帆さん（学習院大学法科大学院教授） 会場：神奈川県弁護士会館5階大会議室（みなとみらい線日本大通り駅1番出口より徒歩1分）+WEB開催 参加無料 申込み：WEB参加希望者は下記 url から申込み下さい。 https://us06web.zoom.us/webinar/register/WN_znRFWgZTSFG8-vJ-2U2-uA、会場参加者は当日直接会場にお越しください。事前申し込み不要、定員100名 共催：日本弁護士連合会、関東弁護士連合会（予定） 問合せ：045-211-7705
- ☆9月16日（土）18:00～ **いま沖縄がたいへんです 小室等と森詠のトークライブ 沖縄・戦争・脱原発** ゲスト：緒方修（沖縄大学客員教授）の沖縄緊急報告 会場：鎌倉生涯学習センターきららホール（先着順、定員286人、鎌倉駅東口徒歩4分） チケット1200円 チケットの入手方法：「命どう宝」かながわの会（080-5035-7168、小堀宛） メール予約：minako_mizuhata@yahoo.co.jp 市内のたらば書房と島森書店にて販売中 主催：「命どう宝」かながわの会 共催：脱原発文学者の会かまくら

- ☆9月17日(日)14:00～ **秋の学習会 基地のそばで暮らすということ** 会場：かながわ県民センター304(横浜駅西口徒歩5分) 資料代500円 講演Ⅰ 明有希子さん(沖縄県宜野湾市出身)「基地のそばで暮らすということ」、講演Ⅱ 星野潔さん(リムピース編集部)横浜ノースドックという基地 主催：平和憲法を守り、行動する神奈川女性の会 連絡先：045-662-8148
- ☆9月18日(月・祝)11:00～16:00 **ワタシのミライNO NUKES & NO FOSSIL 再エネ100%と公正な社会を目指して** 場所：代々木講演B地区・野外ステージ・けやき並木 主催：ワタシのミライ、Fridays For Future Tokyo、さようなら原発1000万人アクション
- ☆9月22日(金)16:00～17:00 **かながわアクション署名街宣運動予定** 場所：市営地下鉄「センター北」駅前 「県民署名」実行委員会の署名用紙・リーフレットの請求は高梨までご連絡ください。連絡先：080-8818-1431(高梨さん)
- ☆9月23日(土)10:30～16:00 **第27回かながわ反戦ツアー 横浜港を前線基地・出撃基地化させるな！「横浜ノースドックを視る」** 10時30分、さくらリビング(びおシティ6F)桜木町駅3分 16時頃、大棧橋解散予定定員24人 費用2000円(資料代・ランドマーク展望室料込み) 10時30分、さくらリビング(ミーティングルーム)学習→12時、各自昼食 13時、ランドマーク集合 ランドマーク展望室から説明みなとみらい駅から日本大通り駅に移動し、大棧橋で説明・解散(みなとみらい駅～日本大通り駅までの交通費は各自負担) 申込み：かながわ平和憲法を守る会事務局 電話090-1105-6980 瀬川、メールe-kaihou@nifty.com、e-kaihou@ezweb.ne.jp
- ☆9月23日(土)13:00～17:00 **第66回JCJ賞贈賞式・記念講演** 会場：全水道会館4階大会議室(水道橋駅徒歩2分) 会場からオンラインでも発信します 参加費：会場参加(90人まで)1000円、オンライン参加800円 会場参加申込み：メールかファックスで申し込みください(office@jcj.gr.jp、03-6272-9782) オンライン参加申込み：<https://jcjaward2023.peatix.com/>で払込ください。9月22日までにurlを送ります。主催：日本ジャーナリスト会議 電話03-6272-9781
- ☆9月23日(土)13:00～17:00 **第18回シンポジウム 歴史教科書・いままでとこれから 新科目「歴史総合」「日本史探求」「世界史探求」と歴史教育の課題** 会場参加とオンライン参加 会場：早稲田大学早稲田キャンパス7号館307教室(東西線早稲田駅徒歩5分) 資料代：一般1000円、学生・院生500円 石上徳千代さん(歴史教育者協議会)：小学6年の社会科教科書と歴史学習、小川輝光さん(歴史学研究会)：「歴史総合」の教科書と授業実践、小沢弘明さん(千葉大学)：「世界史探求」における同時代史記述について、依頼中：大学における教員養成の問題 主催：歴史学研究会、歴史科学協議会、東京歴史科学研究会、日本史研究会、地方史研究協議会、歴史教育者協議会、東京都歴史教育者協議会、子どもと教科書全国ネット 問合せ：090-8100-1038(歴史教育者協議会、竹下) オンライン参加申込み：9月17日までに、オンライン参加希望と明記して、名前、所属、電話番号、メールアドレスをお知らせください。宛先：akadake2020@gmail.com 参加費の送金先を知らせますので、送金ください(手数料は負担してください)。送金確認後、9月21日までにメールでzoomの案内を送ります。定員100名。会場参加：事前申込みを、090-8100-1038またはakadake2020@gmail.comまでお願いします。定員になり次第受付を終了します。
- ☆9月24日(日)15:00～ **平和な未来へ「私の願い」コンサート** メインゲスト：加藤登紀子 会場：小田原三の丸ホール大ホール Kid's Dancing Paformance 出演 元劇団四季メンバー & 鶴岡恵市民合唱団 公演 チケット5000円(全席自由席) チケット販売：小田原三の丸ホール・ハルネ小田原街かど案内所(窓口販売のみ)、平井書店、エプーゼ、鴨宮歯科、IMAYA 主催：実行委員会 後援：小田原市 協力：エレクトーンシティ 問合せ：金子(080-5510-9510)
- ☆9月26日(火)18:00～21:00 **オルタナティブな日本をめざして(第91回)「台湾有事と日本外交・日米同盟」(新ちょぼゼミ)** 講師：孫崎享さん 会場：スペースたんぽぽ 参加費(資料代含む)800円(学生400円) 高橋セーフビルの1階 JR水道橋駅西口徒歩5分 tel.03-3238-9035 Email:tanpopo3238@yahoo.co.jp 予約の受付窓口：たんぽぽ舎(水道橋)：TEL 03-3238-9035 FAX 03-3238-0797 上記に電話して「受付番号」をもらってください。
- ☆9月30日(土)12:00～13:00 **定例宣伝署名行動** 場所：桜木町駅野毛口、野毛ちかみち階段前 呼びかけ：横浜ノースドックへの米軍揚陸艇部隊配備反対連絡会 連絡先：045-231-0103(神奈川県平和委員会 飛田久男)
- ☆10月1日(日)15:00～ **米原子力空母の横須賀母港化反対 米原子力空母いらない！横須賀集会** 会場：横須賀市・ヴェルニー公園 集会後デモ行進 主催：安保廃棄・諸要求実現神奈川県統一促進会議
- ☆10月5日(木)19:00～21:00 **九条の会大集会一大軍拡反対！憲法改悪を止めよう** 会場：なかのZERO 大ホール(1292席、中野駅南口徒歩8分) プログラム：①田中優子さん、中野晃一さんの講演(各40分予定)、②文化行事、③地域・分野からの発言 主催：「九条の会」10/5大集会実行委員会 協賛：戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会、安保法制の廃止と立憲主義の回

復を求める市民連合

- ☆10月7日(土) 11:00~14:00 **ピースフェスティバル in 大和・綾瀬 2023 秋** 会場：大和駅東側プロムナード ピースコンサート：李政美 with 竹田裕美子、ラヒン・カユマンガ、ナーグシク・ヨシミツ、キッズダンスパフォーマンス 模擬店コーナー：沖縄物産など アジアの平和と基地問題を考えるパネル各種 主催：実行委員会 連絡先：046-240-7450 (厚木爆同気付) 後援：大和市、綾瀬市、大和市・綾瀬市教育委員会
- ☆10月14日(土) 14:00~16:30 **小出裕章さん講演会** 会場：あーすぶらざ・プラザホール (JR本郷台駅徒歩3分) 参加費：一般1000円、学生500円 講演：小出裕章さん (元京都大学原子炉実験所助教) 太鼓演奏：太鼓集団「荒武者」 主催：根岸線沿線九条の会 連絡先：090-7175-1911 (後藤)
- ☆10月15日(日) 13:30~ **トーク・シンク・アクション I 女性会議神奈川県本部 60周年記念講演会** 講演：**軍事化とジェンダー～軍事化は平等・多様性を止める** 講師：杉浦ひとみさん (弁護士) 会場：かながわ県民センター2階ホール (横浜駅西口徒歩5分) 参加費無料 主催：I女性会議神奈川県本部 連絡先：045-662-8148
- ☆10月15日(日) 13:30~16:30 **ゲノム問題検討会議セミナー (現地、ZOOM併設)『脳科学技術／ブレイン・マシン・インターフェイス (BMI) と社会』** 場所：国立オリンピック記念青少年総合センター センター棟404 (小田急線参宮橋駅徒歩約7分) 講師：福士珠美さん (東京通信大学人間福祉学部教授)「ブレインテックと倫理課題」、四ノ宮成祥さん (防衛医科大学校長)「脳科学研究に潜む Dual Use の側面」 司会：島藺進さん (大正大学客員教授、東京大学名誉教授) 参加費：1000円 (現地参加及びZoomとも) 後日期間限定の逃がし発信あります Zoomの場合は事前に振込みください 郵便局からの送金の場合：口座番号 10290-70860881、他行からの送金の場合：ゆうちょ銀行028店 (ゼロニハチ) 普通 7086088 口座名義 神野玲子 Zoomの方は事前申し込み：参加希望者は事前に下記メールあてに必要事項明記の上10月13日までに申込みください。必要事項：名前、職業、メールアドレス 申込先 E-mail jreikochan@yahoo.co.jp またはこちらから→ <https://forms.gle/zC9TGjQHP5wrHWtAA> 当日の詳細案内：ZOOM参加申し込みされた方には10月13日頃ZOOMのURL等案内します。主催：ゲノム問題検討会議 <https://www.gnomeke06.net/> 問合せ：神野玲子 E-mail jreikochan@yahoo.co.jp 携帯番号 090-2669-0413
- ☆10月15日(日) 14:00~17:00 **憲法連続講～迷走する岸田政治を問う オンライン開催 第3回 ⑤** 「グリーントランスフォーメーションと原子力発電」報告者：藤野美都子さん (福島県立医科大学特任教授)、⑥「税と財政の平和主義」報告者：永山茂樹さん (東海大学教授) Zoomアプリによる集会です (参加無料) 参加予定の方は、kenponet103@gmail.comまで連絡ください。主催：憲法ネット103 <https://kenponet103.com>
- ☆10月21日(土) 13:30~ **第4回山中市政を進める市民の集い** 会場：市従会館4階ホール (桜木町駅徒歩13分) 資料代500円 趣旨 統一地方選挙後の岸田内閣と地方自治体の役割や山中市政の状況などについて学習し、今後の活動に生かす集いとする。内容：①講演「岸田内閣と地方自治について」講師 岡田知弘 (京都橘大学教授)、②市議会各党会派や山中市政などの報告、③山中市政のこれまでの報告など 主催：市民の市長をつくる会 問合せ：045-650-1896 (菅野さん)

会費納入のお願い：本号に年会費の請求を入れました。会費未納の方は納入をお願いします。年会費は一般10800円、院生・読者・特別会員は5400円、送金先は、ゆうちょ銀行振替口座0280-1-12774、名義は「日本科学者会議神奈川支部」です。

JSA 神奈川支部幹事会と発送作業：日時：9月19日(火) 14:30~16:00 14時30分から発送作業、15時から幹事会 会場：横浜市中区不老町1-6-9 第1HBビル5階B かながわ総研の新事務所(1階に「牡丹飯店」という中華料理屋のある第1HBビルの5階です。関内駅南口から徒歩3分)。連絡先：飯岡ひろし (携帯：090-1557-9941、E-mail：iioka408(at)gmail.com)

次号の原稿の募集：近況、論説、報告、旅行記、論評、自著紹介、書評、その他、原稿をメールまたはファックスでお寄せください。毎月10日ごろの締め切り、15日ごろの発送です。
送り先：後藤仁敏 (E-mail：goto(at)kd5.so-net.ne.jp、Fax：045-894-1052)